

リバネス、地元の熱意で大阪も本社に

2018/4/25 1:30 | 日本経済新聞 電子版

中小・スタートアップ企業支援のリバネス（東京・新宿、丸幸弘社長）が、大阪市港区の拠点を昇格させ、東京、大阪の二本社体制とする。2006年に大阪事務所を開き科学教育の支援などを手掛けてきたが、一時は撤退も検討したという。方針が一転した背景には、地元自治体や町工場の熱意があった。

リバネスの事業領域は学生向けの科学教室から、研究者と企業の橋渡し、スタートアップと町工場の連携後押しと幅広い。

東京では金属加工の浜野製作所（墨田区）が運営するスタートアップとの共創拠点「ガレージスミダ」の活動を支援。台風発電を目指すチャレナジー（同）が沖縄県で行う実証実験向け発電機もここで生まれた。こうした本格的な拠点が大阪にもできることは、地元スタートアップには朗報だ。

20日に開かれた大阪本社に付設するインキュベーションセンターの開所式。40人定員のセミナールームには地元関係者を中心に100人近くがひしめき合った。リバネスに大阪撤退を翻意させ、ここまでこぎ着けた立役者は、港区長の筋原章博氏と精密部品加工の成光精密（大阪市）、圧力計製造の本幅計器製作所（同）の各社長らだ。

「大阪湾岸部の再生に協力してくれないか」。16年、大正区の区長だった筋原氏はリバネスを訪れ、製造業再興策をプレゼン。「創業が続く環境を整えるのが重要で、リバネスの力が必要だった」（筋原氏）。国の研究プロジェクトの支援などをきっかけに、地元工場の経営者らも秋波を送る。丸社長は「彼らの情熱に負けた」と話す。

すでに大阪の町工場が開く共創拠点の運営支援を開始しており、大阪本社の設置で一段の活動拡大を図る考え。「東京と大阪の両輪をまわして、サイエンスやビジネスの発展につなげたい」と丸社長は意気込む。（香月夏子）